

■メキシコ：エネルギー分野で日本と協力

中南米を歴訪中の安倍首相は 2014 年 7 月 25～26 日、メキシコでペニャ・ニエト大統領と首脳会議を行った。両首脳は二国間における経済、投資、貿易分野で更なる協力を推進していくことで一致。エネルギー分野では、メキシコでの石油増産、シェールガス生産が世界のエネルギー市場にとって重要で、日本の技術と資金が有効に活用されることが期待されるとした。メキシコ国内ではエネルギー改革が進められており、今後、日本企業による石油・ガス開発への参画、メキシコ石油公社 (PEMEX) との連携が期待されている。米国エネルギー情報局 (EIA) の試算によると、メキシコのシェールガス推定埋蔵量はカナダに次ぐ世界第 6 位 (約 15 兆 m³) であり、米国産シェールガス (ガス田は南部ルイジアナ州など中心) に比べ輸送コストなどの面で優位性があることから、将来的には日本への LNG 供給源の 1 つになると期待されている。また、原子力協定締結に向けた交渉も引き続き推進していくとになった。気候変動分野では、両国間での二国間クレジット制度を新たに創設し、温室効果ガス削減策として、高効率石炭火力発電技術の活用も図るとされた。